

みのんだ だより 4月号 VOL. 140

医療法人方佑会 植木病院
2024 年 4 月 1 日発行



植木病院

診療を上手に受けるコツ 上手な医療のかかり方

外科 植木孝浩 Takahiro UEKI

診療を上手に受けるコツってあるのでしょうか？

答えはそのようなコツは不要です。

受診される患者さまは、きっと病院へ行こうか、行くまいかと悩んだ末に、当院を選んで受診いただいていると思います。

病名を告げられる恐怖、診察の時の恥ずかしさ、こんなことで受診していいのか？ また、一方で「痛み」や「出血」は一刻も早くなんとかしてほしい、との思いで来院されていることでしょう。

医療従事者はこの思いを汲み取って、診療・看護・事務的対応にあたる必要があると考えており、毎年 4 月の新人研修において、次の点を徹底して伝えてきました。

医療における 8 つの接遇

- 羞恥心を与えない
- 恐怖心を与えない
- 痛みを与えない
- 納得してもらう
- 不便を与えない
- 不快な思いをさせない
- 不利益を与えない
- 感動をしてもらう

これは医療における 8 つの接遇です。全スタッフがこのように対応できるよう、これからも指導していきたいと思っています。

また、長い待ち時間や病院の老朽化に伴う施設の不備など、病院が担うべきことも、ひとつ一つですが改善していきたいと考えています。

皆さまの不安を払拭し、安心して診療・治療を受けていただけるよう努めて参ります。

ところで診察のコツではないですが、こんなことを相談されたことがありました。

「先生の専門とは違うのですが、私のこの症状はどの先生に診てもらったらよいのでしょうか？」
これこそ「かかりつけ医」の役割です。かかりつけ医は「健康に関することをなんでも相談できる上、最新の医療情報を熟知して、必要な時には専門医、専門医療機関を紹介してくれる、身近で頼りになる地域医療、保健、福祉を担う総合的な能力を有する医師」とされています。自分自身がその疾患の専門でないなら、専門医に誘導する。当院にその専門医がいなければ他病院を紹介する。これまでの経験と連携を通じ、自分に向けられた質問に答えていくのもその役目のひとつです。是非とも当院の医師を、皆さまの「かかりつけ医」として位置付けていただきたいと思います。

上手な医療のかかり方に関する情報を発信していく 厚生労働省のウェブサイト
<https://kakarikata.mhlw.go.jp/kakaritsuke/motou.html>



2024 年 4 月 1 日
みのんだだよりは創刊 10 周年を迎えました。
今後も変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

創刊 10 周年を迎えて

植木孝浩
外科 / 理事長
みのんだだより編集長

みのんだだよりは、2014 年 4 月に第 1 号を発売して 10 周年を迎えました。

当時の原稿を読み返してみても、この紙面に込めた自分の考えがよみがえりました。もっと植木病院のことを知ってもらいたい。私たちスタッフのことをもっと知ってもらいたい。そんな思いを込めて皆さまへお伝えしようと考えていました。スタッフとともにどんな内容にしていこうかと編集会議も繰り返しました。そして、来院いただいている患者さま、ご家族の方々に向け、みのんだだよりを発売することとなりました。

この 10 年間、その季節やその時期にあった内容を選び、スタッフに原稿を依頼して先月号の第 139 号までお届けしてきました。楽しいイベントの告知もあれば、未知の病気だった新型コロナウイルスへの対応など、皆さまに親しみと、信頼をいただくため紙面を埋めて参りました。

これからも当院が皆様の求める病院であり続けられるよう、この紙面もまた成長していきたいと考えています。

「かかりつけ医」をもとう！

Q 自分で選んでいいの？

かかりつけ医はご自身で選択できます。
日常生活における健康の相談や体調が悪い時などにまず相談する。
自分が信頼できると思った医師であればかかりつけ医と呼んで構いません。



Q 選ぶのは一人なの？

かかりつけ医は一人に決める必要はありません。
例えば内科のかかりつけ医の他に眼科にも通院しているという場合には眼科の医師もかかりつけ医と言えます。

Q 何科の医師を選べばいいの？

内科医がかかりつけ医と思われがちですが、どの診療科の医師でもかかりつけ医になります。

引用：上手な医療のかかり方.jp ホームページ 「かかりつけ医」ってなに？

着替えをしないで撮影すると X線ではこう写ってしまいます

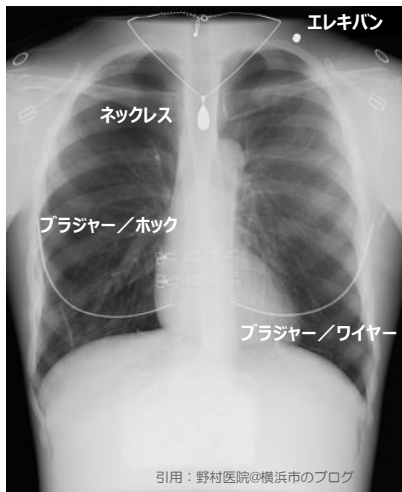
放射線科 丹羽大輔 Daisuke NIWA

X線撮影の時、服を着たまま、下着を付けたままで撮影すると、プラスチックや金属類でできたものすべてが写ってしまいます。これらは画像診断の妨げになるので、撮影する部位によって検査着に着替えていただく場合があります。

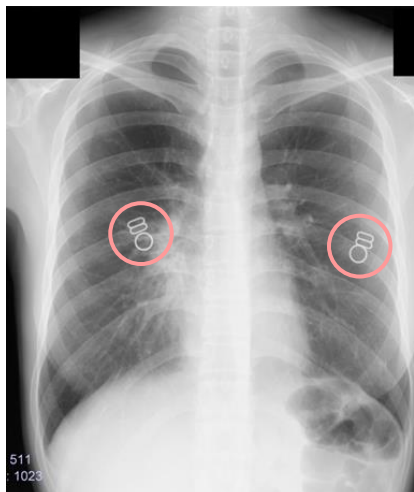
胸部の撮影では、ボタンのあるシャツ、ホックやワイヤーのついたブラジャーを着用している場合は検査着に着替え、ネックレスなどのアクセサリーは外します。また、生地の厚いセーター、プリント柄のあるシャツを着用している場合も着替えていただきます。ですので、健康診断で胸部 X線検査を受けられる方は、あらかじめ無地の T シャツを着ていただくのがよいでしょう。

女性の方で注意していただきたいのがキャミソールです。肩紐調節の部分に金具やプラスチックが付いているものがありますが、検査を受けられるご本人もこれに気付いていないことが多く、そのまま撮影したら写り込んでいたということがよくあります。

腹部や腰椎の撮影時、ズボンにボタンやファスナーがある場合や、スウェットやジャージで腰まわりをゴムやヒモで締めつけられている場合は、検査着に着替えていただくか、または画像に写らない位置にずらしていただきます。ポケットにカギが入っていることも多いので出しておいてください。



ネックレス、ブラジャー、エレキバンは外して撮影しないと X線画像に写ってしまいます



キャミソールの肩紐調節部分に金具がついているものがありますのでご注意ください



ブラジャーのホックが腰椎に重なりと診断の妨げになります



冬場に多いのがカイロですカイロを貼ったままで撮影するとこう写ってしまいます

すべての X線撮影で着替えが必要な訳ではありません。服を着たままでも問題がない場合もあります。しかし、診断するうえでどうしても着替えていただかなければならない時もあります。撮影目的によって撮影担当者が判断しますのでご協力をお願いいたします。

創刊 10 周年記念号

みのんだ だより 4月号 VOL. 141

医療法人方佑会 植木病院

2024 年 4 月 1 日発行



創刊 10 周年を迎えて

丹羽大輔
放射線科
みのんだより編集担当

2014 年 4 月 1 日に創刊したみのんだよりは、おかげさまで創刊 10 周年を迎えることができました。これまで支えてくださった皆さま、原稿執筆にご協力いただいたスタッフの皆さまに厚く御礼申し上げます。

みのんだよりの編集を担当して 10 年が経過しました。

「患者さまに向けた広報誌を作りたい。」植木院長（現理事長）の思いや考えに賛同し二つ返事で引き受けました。

みのんだよりに託した思いを、これまでの紙面でどれだけ表現できたのだろうか…。そんな思いです。

ど素人だった広報誌制作ですが、「発信する情報はできるだけわかりやすくお伝える。」

このモットーだけは創刊当時から今も変わりません。

病気に関すること、検査に関すること、病院の取り組みに関すること。皆さまに興味を持っていただける、お役に立てる情報を、今後わかりやすくお届けしていきたいと思っています。

これまでありがとうございました。これからもよろしくお願ひいたします。

10th ANNIVERSARY